令和２年度　第１回
松本市・山形村・朝日村中学校組合
総合教育会議議事録

松本市・山形村・朝日村中学校組合教育委員会

令和２年度第１回松本市・山形村・朝日村中学校組合総合教育会議議事録

令和２年度第１回松本市・山形村・朝日村中学校組合総合教育会議が令和２年１２月２３日午後３時松本市役所第一応接室に招集された。

議　事　日　程

１　開会

２　あいさつ

３　会議事項

⑴　松本市（今井）、山形村、朝日村の各小学校の教育方針について

⑵　ICT機器を活用したこれからの教育について

ア　GIGAスクール構想の進捗状況

(ｱ)　ICT機器の整備状況

(ｲ)　学校での取組状況

イ　意見交換

４　閉会

出席者名簿

【会議構成員】

管理者（松本市長）	臥　雲　義　尚　君
教育長（松本市教育長）	赤　羽　郁　夫　君
教育長職務代理者（朝日村教育長）	百　瀬　司　郎　君
教育委員（山形村教育長）	根　橋　範　男　君
教育委員（保護者代表（朝日村））	清　澤　あゆみ　君

【鉢盛中学校】

学校長	藤　田　克　彦　君

【松本市教育委員会】

教育文化センター指導主事	小　川　文　徳　君
学校指導課指導主事	合　内　誠　宣　君

【事務局職員】

事務局長	横　内　俊　哉　君
事務局次長	小　林　伸　一　君
事務局次長	上　條　公　徳　君
事務局次長	髙　野　　毅　君
事務局次長補佐	金　井　　稔　君
事務局主任	松　尾　昌　樹　君
山形村教育委員会	小　林　好　子　君
朝日村教育委員会	上　條　靖　尚　君

◎懇談項目

○事務局次長（小林伸一君）　それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和２年度第１回松本市・山形村・朝日村中学校組合総合教育会議を開催いたします。

議事に入るまでの間、私、事務局次長の小林でございますが、進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議は公開として、お手元の次第により進行させていただきます。

最初に、この会議を主催します臥雲管理者からご挨拶をお願いいたします。

○管理者（臥雲義尚君）　皆さん、お疲れさまでございます。

今年も残すところあと僅かになりましたけれども、令和２年度第１回目となります総合教育会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

この会議は、地方教育行政法に基づきまして、首長と教育委員会が相互に連携を図って、教育に関する重要な課題について意見交換をさせていただくものでございます。

今日は、各市村の小学校の教育方針、そして、ＩＣＴを用いた教育についての情報の共有と意見交換をさせていただきたいというふうに思っております。

鉢盛中学校につきましては、松本市におきましても１人１台の端末の配備、ネット環境の整備ということが一足早く完了をして、先生方への研修もスタートしている状況でございます。それは、逆に言えば様々な課題や悩みも既に学校現場で出ていることにもつながると思います。今日はこうした実態、取組状況をお伝えしまして、来年度以降、積極的に取り組んでいかなければいけないＩＣＴ機器を活用した教育の在り方について、忌憚のないご意見をいただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局次長（小林伸一君）　ありがとうございました。

続きまして、赤羽教育長からご挨拶をお願いいたします。

○教育長（赤羽郁夫君）　それでは、教育委員会を代表しまして、私から一言ご挨拶を申しあげます。

本日の会議につきましては、今臥雲管理者のほうからお話がありましたとおり、首長と教育委員会が相互の理解を深めるという趣旨で開催をいたすところであります。

鉢盛中学校の運営につきましては、構成の３市村が共通理解を深めながら、50年以上にわたり組合運営に取り組んできた歴史がありまして、現在も大変良好な関係を築いてきております。

教育委員会といたしましてもこれまでの関係を大切に引き継いで、そして、この総合教育会議が充実したものになるように力を尽くしてまいりたいと考えております。臥雲管理者におきましても、今後とも格別のご理解とご協力を賜りますようお願いをいたします。

今管理者のほうからお話がありましたが、鉢盛中学校は12月１日にいち早く１人１台端末

が入りましたけれども、あとの３市村につきましては、本年度中の導入を予定しているということで、各市村のまた先行的な取組みということで、そのことも参考になればいいなというふうに期待をしているところであります。

いずれにしましても、鉢盛中学校の生徒の健やかな成長のために有意義な意見交換ができますことを願っております。

本日はどうぞよろしくお願いを申しあげます。

○事務局次長（小林伸一君）　ありがとうございました。

それでは、これより議事に入ります。

議事の進行につきましては、臥雲管理者にお願いいたします。

○管理者（臥雲義尚君）　それでは、議事の進行を務めさせていただきます。

初めに、この鉢盛中学校は組合立の中学校として、松本市、山形村、朝日村の小学校を卒業した子供たちが一緒に学んでいるものでありますけれども、改めてそれぞれの市と村の小学校の基本方針について、情報の共有をさせていただければと思います。

まず、山形村の根橋教育委員から順番にお願いをいたします。

○教育委員（根橋範男君）　では、お手元のほうの学校要覧を見ながら、山形小学校の教育方針等についてご報告をさせていただきます。

山形村立山形小学校は村内唯一の学校ということで、村民の皆様の学校へ寄せる思いはとても強いものがあります。今年度の山形小学校の児童数は469人で、学級数は特別支援学級を含め21学級となっています。児童数は近年微減の傾向にあり、今後もこの傾向は続くものと見込んでおります。

それでは、山形小学校の教育方針について申し上げます。

１枚要覧をめくっていただいて、グランドデザインをご覧いただきたいと思います。

上のほうに山形村立山形小学校グランドデザインと書かれたところを説明させていただきます。

学校教育目標は「なかよく　かしこく　たくましく」であり、この学校教育目標の具現化に向けまして、学校運営に当たり４つの重点活動を打ち出しています。それは「あいさつ」「せいそう」「あそぶ」「かたる」の４つです。

活動の内容も書かれておりますけれども、とても小さくて読みにくいものですから、ちょっとここで読ませていただきますが、「あいさつ」でありますが、自分から明るい声で気持ちを考えて相手に伝わる挨拶をする、「せいそう」は膝つき清掃で、最後まで磨き上げ、物や人に感謝する清掃をしよう、「あそぶ」は友と関わり、安全に相手の気持ちを考え、友とはまり込んで遊ぼう、「かたる」は場に応じた声で自分の言葉で思いや考えを語ろうという内容です。この４つの重点活動を通じて児童の社会力、いわゆる生きる力を育んでいくことを目指しています。

なお、清掃につきましては、鉢盛中学校の膝つき清掃を山形小学校の教職員が学び、山形

小学校の伝統に育てたいと平成28年度から取り組んでいる内容です。小学校では膝つき清掃と、１年生から６年生が縦割りチームになって行うチーム清掃というものに取り組んでおります。

また、この４つの活動に関わる教師の教育活動として、児童が認められ、褒められ、学習が楽しいと感じる学校を目指すこととしています。そのため、居場所があり、安心して学べる仲間づくりを進め、命の尊さが分かり、自他を大切にできる子を育み、基礎学力の定着向上に努めることとしています。

一方、鉢盛中学校での取組みと同様に、山形小学校でも保護者や地域の皆様が積極的に子供の育ちに関わることとしています。

先ほどのグランドデザインの下に山形小学校のコミュニティ・スクールの解説図みたいなものがありますので、こちらも併せてご覧いただければと思います。

山形小学校は地域と共にある学校づくりを進めるため、平成27年度から文科型のコミュニティ・スクールとして学校運営協議会を設置するとともに、学校支援地域本部を設け、住民が学校運営に直接関わる仕組みをつくってきました。学校支援地域本部は現在５つの支援部から構成されていて、延べ1,300人ほどのボランティアの方々が学校支援に入っております。

また、村教育委員会では主体的に地域課題に取り組み、他者と協働し、より良く地域の課題を解決していく力を育成していくために、そのためにはやはり子供たちがふるさとに誇りと愛着を持つことが重要であると考え、平成28年度から山形小学校でのふるさと学習を積極的に進めてきています。

小学校では児童のふるさと学習での学びの成果として、児童自らが発見した地域の宝を取りまとめたその内容をＡＲとしてデータ化したり、「いいとこたくさん山形かるた」を作成してきたりしております。

今後は学びをさらに深めながら、成果の発表と活躍の機会を一層充実させ、子供たちの自己肯定感を高めていきたいと考えています。

山形小学校での学びの中で、児童がたくさんの地域の大人と関わることは、子供たちのキャリア教育にとってとても有意義であると思っています。子供たちが学校生活の中で笑顔があふれ、夢を持って学び続けていくことを願っております。

以上、教育方針等報告させていただきました。

○管理者（臥雲義尚君）　ありがとうございました。

続きまして、朝日村の百瀬教育長職務代理者、お願いします。

○教育長職務代理者（百瀬司郎君）　それでは、私のほうからお願いします。着座にて失礼いたします。

学校要覧、ちょっと細めのこういうものなんですね、よろしくお願いします。

朝日小学校は明治22年に尋常小学校ができて以来、146年という長い歴史がございます。校訓は学びてやまずということで、学校の校歌にもありますけれども、たゆまず学ぶという

ことを目指しております。

児童数は205名でありまして、やはり年々微減の状況が続いております。学級数は普通学級８学級、特別支援学級が２学級の計10学級となっております。

学校目標でございますが、学校要覧を開いていただきまして、そこにグランドデザインがございますが、そこの一番上にありますように、「鉢盛山より大きな心でかがやくひとみのあさひっこ」としております。

この「大きな心」というのは自分も人も大切にする心、「かがやくひとみ」というのは自ら求めて学ぶ姿としているわけであります。それがここにある「ゆたかな心」「たしかな学力」「すこやかな体」、この３つに集約された具現の姿として求めていることになります。その学校目標に迫るために、校長の願いを受けて、目指す学校を「笑顔あふれる学校」として今年は取り組んでおります。

その下にある今年度の重点をご覧いただきたいと思いますが、それぞれ重点項目幾つかある中で、中核活動というのが左側の２番目にございます。この中核活動というのは、学級の中に核となる活動を位置づけて、学級全体の子供たちがそこに向かってみんなで課題を解決するという取組をしております。集団での行動、またみんなで問題を解決する力を養うということでこの活動を行ってきております。

例えば昨年の事例でいいますと、１年生ではヤギの飼育、２年生では野菜や大豆を育てる、４年生では鎖川の環境問題などの追究を学級全体で１年間取り組んでまいりました。

今年はコロナであまり活動が大きくなりませんが、１年生がサツマイモを育てて、自分たちで焼き芋大会を計画して、準備から何から全てを子供たちがやり終えたという達成感を持っております。こうした自分たちの課題を実行にして、課題を解決していくというような取組みをしております。

また、そこに小さな字でありますけれども、そこに書いてありますけれども、「多様な子供たちを包み込む学級」とありますが、今、各学級には発達障害や配慮の必要な児童が何人かおります。そのような子供たちを大切に思う心を育てる、つまりその子たちを特別に扱わない姿勢が子供たちも職員も大事にしているところであります。これはインクルーシブ教育と言われるわけでありますけれども、それを大事に考える校長を中心に、先生方を通して、どの子も自分の居場所がある、また自己実現が学校の教育活動の中で図れる、そういった学校づくりを目指しているところであります。不登校は今のところございません。

また、その下にある朝日プランとありますが、先生方が自分の学年のカリキュラムの編成をいつも学年会議等で見直しておりまして、一覧表を変更しながら１年間のカリキュラムをつくっているところであります。これはいわゆるカリキュラムマネジメントにつながるものでありますが、各教科を横断的につなぐ学習を展開するといったことで、幅の広い、また子供たちの意欲に根差した学習を展開しようとするものであります。

課題としては、なかなかコロナ禍で研究が進められない状況にあるのでありますけれども、

授業における学び合いとか、子供自ら追究する探究的な学びという点ではまだ課題が残るところと捉えております。

また、コロナ禍でありますけれども、やはりなかなか外部の方が学校の中に入るということはなかなか今年できなかったんですけれども、地域の教育力を生かすということで、要覧の写真の裏にありますように、ふるさと道場などコミュニティ・スクールの学校ボランティア活動も村民の皆さんの協力を得てサポートをいただいています。

今後も地域、村民の協力等の力をいただきながら、学校運営のほうを進めてまいりたいと考えております。

以上であります。

○管理者（臥雲義尚君）　ありがとうございました。

続きまして、松本市の赤羽教育長、お願いします。

○教育長（赤羽郁夫君）　それでは、今井小学校の学校要覧、お手元にございますので開いていただいて、そこにあります今井小学校グランドデザインを中心に私のほうからお話をさせていただきます。

今、山形小、それから朝日小の説明がありましたけれども、今井小も、今井地区でありますけれども、やはり農村地帯でありまして、三世代の家庭も非常に多いということで、令和５年にやはり創立150周年を迎えるという伝統のある学校でありまして、朝日小、山形小同様に、まさに地域のシンボルであり、地域の方たちが大変協力的であると、学校に誇りを持っているということであります。

近年、その右側のほうを見ていただくと、町別児童数という表がありますけれども、児童数がやはり減少傾向にありまして、本年度は144名、114家庭ということであります。平成24年から全学年が１クラスになって、それまでは複数の学級があったわけですけれども、平成24年からは全学年が１クラスになっているという状況であります。

それでは、その左側のグランドデザインをご覧をいただきまして、校長、それから保護者、地域の願いを基に学校教育目標、それから重点等を決めていますけれども、その学校教育目標の下に、ピンクのところで「だいすき今井」ということを核として決めましていろいろな活動に取り組んでいます。

指導の重点のところを見ていただくと、黄色で左側の１のところで、子供主体ということで、楽しく明るい環境づくりということで、校内外の学習環境と学校環境の充実ということを一つ大切にしています。特に、表紙のところを見ていただくと、この今井小学校へ私も時々訪れることがあるんですけれども、昇降口はプランター等で常に花を飾っている。それから、人権教育等も関わって、人権の花というような形でプランターを活用した、そのような活動も盛んに行われております。そして子供たちの心を育てるということを、子供たちを中心にした活動で取り組んでいるということであります。

２点目に、学びをつなぐということで、分かって楽しい授業づくりということで、自ら課

題を持ち学び合う子の育成を目指して取り組んでいます。そして、特にやはり体験ですとか具体的な活動、「人・もの・こと」と関わりながら、特に今井の「人・もの・こと」と関わりながらの充実した授業づくりを目指しています。

そして、来年度になりますけれども、長野県の生活科、総合的な学習の時間の全県研究大会の会場として、研究、それから準備等を進めているところであります。これを契機に一層総合的な学習、それから生活科等を核にして、やはり自分が課題を持って、そして友達と学び合う、そういう学習の充実を全校挙げて取り組んでいるところであります。

それから、右側の上のほうで「笑顔であいさつ」と、右側のところに、真ん中の辺ですかね、ありますけれども、関わりづくりということで幾つか取り組んでいますけれども、伝統的に今井小学校で大切にしていることは、校庭に隣接して松本養護学校がありますので、そこが行き来ができるようになっていまして、松本養護学校との交流というのが長い間行われています。例えば１年生ですと１年生と、行って連絡を取りながら交流をして、その学年はずっと６年卒業するまでずっと交流を続けるということで、６年間交流を続けると、子供たち同士非常に仲良くなって、まさに子供たちの思いやりとか優しさとか、それから共に活動する楽しさというようなことを子供たちは６年間かけてしっかり学んでいくと。

以前、松本養護学校は過大化をしまして、今井小学校の別棟の図工室を貸してくれということが２年間ありまして、過大化解消のために高等部の子供たちがそこで２年間学習をしました。私も何回か行きましたけれども、今井小学校の子供たちと非常にいい関係で、やはり日頃の交流の成果というものがそういうところでも現れているかなというようなことを感じました。

そのほかに、今井小学校の特徴的な活動、ここに書かれていない部分も含めてでありますが、松本市内に唯一スケート場が設置されています。昔は校庭でしたけれども、今張らないので、今年度も校舎の脇に、１、２年生が滑るくらいでそんなに大きくありませんけれども、ＰＴＡの方たちの協力を得てリンクを造って、今年ももう滑れるような状態だということで、今年とても寒いですので、そんなお話でありました。

それから、もう一つは、ここは、朝日村もそうなんですけれども、木曽義仲ゆかりの地でありまして、木曽義仲四天王の一人で、今井四郎兼平という人のゆかりの地であるということで、６年生になると必ずその兼平太鼓という和太鼓の演奏をするというのが今井小学校の伝統になっておりまして、６年生の卒業音楽会、それから地域の行事等に必ず演奏して、私も何回も卒業音楽会に行きましたけれども、これはもう本当に小学生と思えないくらいすばらしい演奏をして、それが子供たちの自信にもつながっているというようなことであります。

併せて、コミュニティ・スクールとして今井っ子なかよし会というような取組みを地域の方たちと共に進めているということであります。

それから、この鉢盛中学校も含めて４校で合同の職員研修会を開いている、それも大きなこの地域の特徴の一つではないかなというふうに感じています。

今、いろいろなお話をしましたけれども、最終的にはまた「だいすき今井」ということを合言葉に、地域に根差した教育活動を進めているというのが今井小学校であります。

以上であります。

○管理者（臥雲義尚君）　ありがとうございました。

続きまして、鉢盛中学校の藤田学校長、お願いいたします。

○学校長（藤田克彦君）　では、こちらより着座にて失礼いたします。

本校は組合立鉢盛中学校ということになって今年度で54年目を迎えます。３地区から通ってきてもらっている子供たち、全校で今年度は436名です。３地区の率を申し上げますと、今井地区17%、山形地区59%、朝日地区24%、ここ数年このような比率はほぼ変わりがありませんし、来年度においてもこの比率は変わりございません。来年度は、今年度436名から令和３年度は461名の生徒数になり、先を見通してここがピークであるかなという感じがしております。

３小学校から入学をしてもらい、そして中学校はやはり卒業後の自立に向けたことを一番に考え、本年度は「自分もまんざらじゃない」と思える学校ということを一つ重点に置いて、全ての授業、全ての教育活動を通してこの自立の基盤になっていく、自分もできる、まんざらじゃないというそういう思い、まさに自己肯定感、自尊感情を育んでいきたいという、そういう願いを持って活動をしております。

各小学校のご発表とともにありました、まさに学校に居場所があって、それぞれの生徒が自己実現を図り、自己存在感を感じられる、そんな学校でありたいということでございます。

その中で、特に今年はコロナの関係もあり、この「思」「誠」「愛」に関わる「愛」の部分、本校ではいじめ追放宣言というのを生徒会で平成26年度に制定をしましたけれども、今年は特にいろいろなことで命と向き合い、それぞれ一人一人の心の根っこを深くする、そんな性教育や人権教育の学びを大事に、今年度は展開をしてまいりました。

また、本校は自転車通学生が93%ということで、学校運営において一つの重要課題として、いわゆる交通安全教育ということがあります。これについても小学校に出向いて、児童、保護者にもそこの部分を説明しながら、連携しながら、そこの交通事故ゼロを目指して進めております。

併せて、先ほど赤羽教育長のお話もありましたけれども、一つの柱に沿った方向を、ベクトルを同じようにして子供を育むために、小中連携並びに４校による職員研修を複数回行いながら、中学校で行っていることもご理解いただきながら、小学校での教育実践にも生かしていただいていると、大変ありがたい状況にございます。

本校でもコミュニティ・スクールをはじめ、地域を大事にしたふるさと学習も大事にしながら、「自分もまんざらじゃない」と思える学校づくりに励んでいるところであります。

以上です。

○管理者（臥雲義尚君）　ありがとうございました。

次に、ＩＣＴを活用したこれからの教育について意見交換をしたいと思います。

初めに、ＧＩＧＡスクール構想の進捗状況について、事務局から報告をお願いします。

○事務局次長（上條公徳君）　事務局次長の松本市学校教育課長の上條でございます。私からご説明申し上げます。

右肩に総合教育会議資料と申し上げてございます別添２の資料をご覧をいただきたいと思います。

鉢盛中学校におけるＧＩＧＡスクール構想の進捗状況についてでございます。

趣旨でございますが、現在進めているＧＩＧＡスクール構想に係るＩＣＴ機器の整備状況のご報告であります。

ご案内のとおり、これからのＩＣＴ教育のまさに基盤となるものをＧＩＧＡスクール構想において整備をしています。その進捗状況ということで、２に表を申しあげてございます。

左の列に契約名が６つございます。ご覧のように全て契約済み、もしくは導入済みというようなことになってございます。

特に、肝となるものが、一番上の列、ネットワーク工事でございます。校内ＬＡＮの整備でございますが、こちらは12月に竣工ということになりまして、既に稼働してございます。

そして、次の列で生徒の１人１台端末でございますが、こちらが11月19日からリースが始まってございます。既に授業のほうでも活用が始まっていると聞いております。

続いて、３の導入機器の数量について申し上げますが、まず、１人１台端末については総数453台ということで、生徒分、それと余剰分というようなことで担任の先生にお使いいただくものを整備をしております。

それから、モバイルＷｉ－Ｆｉルーター22台ということで、こちらはご家庭で動画が見られないお宅用のものでございまして、こちらは調査結果に基づく数量でございます。休校時等において学びの保障というようなことで、ご家庭に貸し出して動画を視聴できるような環境を整えるというものでございます。当然、休校ではないような通常時においては、校外学習等々でお使いいただくことができます。

それから、（３）の遠隔授業配信用ウェブカメラ、マイクということで、こちらは学校側から配信するのに必要なものでございまして、１学年各１台ずつというようなことで整備をしてございます。

続いて、ＧＩＧＡスクールサポーターについてでございますが、こちらは、ＩＣＴ技術者を配置することで、ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けた初期支援体制を構築するものでございまして、鉢盛中学校には１名を配置してございます。導入いたしました１人１台端末の初期設定、Ｗｉ－Ｆｉルーター等々の機器の設定、さらには端末や機器のマニュアルの作成などを行ってまいります。これからＧＩＧＡスクールサポーターの活動が本格化しますけれども、しっかりとその体制を整えまして、先生方が不安にならないような活動ができるようにしてまいりたいというふうに思っております。

進捗状況については以上でございます。

○管理者（臥雲義尚君）　次に、学校での取組状況についてお願いいたします。

○松本市教育委員会（合内誠宣君）　学校指導課の合内誠宣と申します。よろしくお願いします。

お手元の別添資料１、それから２について説明させていただきます。

小学校では今年度から、中学校では来年度から新しい学習指導要領が完全に実施されます。新学習指導要領では、何ができるようになるか、どのように学ぶか、何を学ぶかが大事にされております。そして、主体的、対話的で深い学びの姿勢が求められています。

主体的については、こちらの「目指す子どもの姿」の中にもありますが、授業の中で、「どうして？」「なぜ？」、また「あのやり方かな？前に学んだぞ！」「こう考えてみよう！」、このような姿が子供たちから生まれるように授業で取り組んでいます。対話的な学びにつきましては、「みんなはどう考えているのかな。」「こういうことかな。」「なるほど。いい考え方だね。」、また、深い学びでは「こんなことが分かったよ。」「今度はこうしてみよう！」「すごい！できたよ。もっと知りたいな。」、そんな学びが実現できるように日々授業改善に取り組んでいます。

深い学びでは、自分のこれまでの考え方と新たに学んだ考えをつなげることも大事になります。こうした学習で、これからは効果的にＩＣＴを活用していきたいなと思います。

では、実際に、１時間の授業ではどのような場面でＩＣＴが活用できるかということですが、お手元の資料の別添資料２になります。

例えば、授業の導入部分でしたら、大型提示装置、電子黒板や１人１台タブレットを使うことで、これまでの学習内容を確認したり、これから学習する内容を先生側から提示することができます。子供たちがイメージを膨らませやすくなります。

授業の展開では、個別やグループで考える時間が大いにあるんですが、その中で、考えたことを全体で共有したり、分かったことや新たな疑問について話し合ったりするときに、１人１台ダブレットを使って思ったことを、例えば１人１台タブレットで写真に撮ってとか打ち込んで、それを先生側の端末に飛ばして、それを大型提示装置に、スクリーンに映し出してみんなで共有して、また考えていく、そんな学習ができるんじゃないかなと思います。

また、授業の終わりでは、今日学習したことやこれからやってみたいことを、今までもノートにはまとめますが、これからはデータ上で情報を整理してまとめていく、そんなことも授業の中でできるようになっていくかと思います。

それ以外にも、その他に書いてありますが、学校間の合同授業や遠隔地の外部人材の支援を受けた授業、緊急時の遠隔授業、また不登校や病気療養の児童・生徒のカウンセリング、学習機会の確保、それから個別最適化という言葉もございますが、違う場所、違うペースで学習すると、そういうときにこれからＩＣＴが活躍するんじゃないかなと思います。

ただ、なかなか先生方が、ＩＣＴに堪能な先生もいればちょっと苦手にされている先生も

いますので、私たちのやはり大事にしたいことは、教材共有や学習ツールの一つとしてＩＣＴをぜひ積極的に活用していきたいところですが、ポイントを絞り、できることからまず試してみると。全部一気にやろうとすると先生方がかなり負担に思われます。まずはこれをしてみようということを先生方にお伝えしながら、その導入、展開、終末のところにも、丸が教師側のよさ、四角が子供側のよさでまとめさせていただきましたが、ＩＣＴを使うことで先生側にも子供にとってもメリットがありますので、そのよさを伝えながら、成功体験ができるようにしていく。ただ、大事にしたいのは、ＩＣＴを使えばいいというわけではなくて、やはり子供たちの資質、能力の育成につながる、ここが一番大事になると思いますので、ここを忘れないように頑張っていきたいなと思っております。

それでは、実際の活用の様子について。

○松本市教育委員会（小川文徳君）　教育文化センターの小川と申します。よろしくお願いいたします。

今、合内が申しあげたとおり、最終的には子供たちの力になるためのＩＣＴ機器を整備しなければならないと思っております。そのために、今鉢盛中学校で少し導入させていただいているものについて、ちょっと動画を撮ってきましたので、動画を見ていただきながら説明したいと思います。

まず、アクセスポイントといって、今までなかったんですが、各教室に大体これ１個で100台まで入るんですが、このアクセスポイントを各教室、特別教室に設置させていただきました。そこからハブとかこういった廊下にも機器を設置して、高速なインターネットが流れていくような機器を設置しました。

ちょっと見にくくてごめんなさい、これが充電保管庫と申します。各教室に子供たちがタブレットを入れておくための保管かつ充電ボックスになります。地震にも対応して、倒れないようにということと、あとは鍵をかけることができるセキュリティー的な意味、それと、輪番充電をするということで、すみません、これは話が先に行ってしまいます。これが450台ほどあるタブレットになります。

こういう形で何年何組何というふうに管理をするんですが、鉢盛中学校の場合、一つ一つにテプラを３つ貼りまして、本体、そしてキーボード、そしてアダプターのところまで貼って、個人のものが明確にというふうにしていきたいと思っております。

今日、１個ちょっとサンプルだけ持ってきたので、じゃ、ここで今配ります。これが実際に入るものになります。もしよかったらお手に取っていただいて。

鉢盛中学校は450台ほど、この３つの今サンプルお渡ししたものを展開しております。

パスワードは、すみません、12345です。

結構重かったり、心配かなという声も出ているんですが、かなり小さめなコンパクトなものになっているかなと思います。

それを持ちながら続きを見ていただければと思います。

すみません、これが業者と支援員さんと共にさっきの充電保管庫をセッティングしているところになります。１台のところに縦に入りますので、まだセッティングしているところですが、一人一人の名前、そして機器のほうを照らし合わせて、ミスがないようにということで全部チェックしながら入れていただいているところになります。これだけの量なので結構時間はかかるんですけれども、今全部完了しています。

一応持って帰ることも前提に、これを取り外して自宅に持って帰るためにはどうしたらいいかということもしっかり考えています。

上に１個機械もあるんですが、あれが輪番充電といって、４つに分けて充電をしていくと。そうすると、壁のコンセントに大電流が一気に流れないで済むという、そういう輪番充電器というのが上についていて、そのケーブルが出ているんですが、どの端末はどれになるというふうに、１対１になるようにセッティングしています。結構手間暇かかるとは思うんですが、これをやるしかないかなと。

今回入れさせていただいたのはこういうケースになっていて、５個ずつのものになっています。ですので、セットでこうやって出していけると。そうしないと40人が一斉にあそこに行って密になってしまうかなというようなこともあって、こういうちょっとしたバスケットみたいなところでこのようなものを設置しています。

これ毎回やるのは大変で、朝ここから外して持っていって、放課後入れるときに、ここに一個一個確認をして、数を確認して施錠するような運用なのかななんていうことも思っています。

これ研修の様子になります。先生方の研修をしようということで、こちらの方はエプソンさんをお願いをしていて、ログインのやり方とか、あと保存方法が今までと全く違いますので、クラウドというものを使っていくんです。ですので、それの研修をしています。

あと、一番最初に使うかなと思ったので、ドリル、ｅライブラリというドリルなんですが、これもメーカーの方にも来ていただいて職員研修をさせていただきます。なかなか初めてで使いにくいかなと思うんですが、慣れていただくしかないかななんて思いますが、メーカーの方とか支援員さんとかと連携しながら、先生方にいろいろな研修をしていきたいなと思っています。

子供たちが自分のＩＤ、パスで入ると、間違えたところを次の問題が出てくるとか、そういう少し考えてくれているソフトになります。これ家庭の機械でもできるサービスですので、休校時なんかは対応できます。この先生は外してタブレット式にこうやって使っています。

研修の在り方について、またしっかり考えていかなければいけないかなと思うんですが、非常に重要なことかなと思っています。

これはＺｏｏｍをちょっと体験してみたいという話でしたので、この場で先生方を全部つないで、いわゆる遠隔のＺｏｏｍの体験をしているところになります。使っていらっしゃる方はすごく多いんですが、まだ全員がもうしっかり使っているという状態ではなかったので、

一回全体でやってみようかなと。その場で30台、40台つなげてやっております。

先生方の研修とかではもう普通に使っているので、多くの方が使っているんですが、いわゆる休校時、こういう授業になってくるかなということも考えてこういう研修も取り組みました。

じゃ、子供たちが実際に使っている様子をちょっと見ていただきたいと思います。

まず、朝の時間、これ２年１組というクラスで、朝１時間目の忙しいときにちょっとお邪魔したんですが、先生が隣にいて毎日提出物を集めている横で、この子の場合は係の子が保管庫から机の上に出してくれていました。事前に全部アダプターを外して、出せる状態にして、あそこで。

こういう状態ですから、やはり一意に名前がないと難しいのかなというふうに、これを見て思いました。名前があるので子供たちは自分のものを選んで持っていくということです。

初めて触るということで、ちょっと興味津々かなと思います。

今日はこの後、教室でタブレットを取って、理科室に移動するという授業の様子を撮ってみました。チャイムが鳴っているのは朝の会が終わったところです。この後の移動時間の間に理科室に移動する。こんな状況でございます。

落としそうだという、やはりケースとかという話が出ているのかなとやはり見ていて思いました。理科のファイルだけでかなり厚いんですけれども、そこに厚いものが入ってしまうので、子供たちは結構ぎりぎりかなと。

初めてですので、丁寧に話をしました。組合からお借りしているものだということと、あと使っていいことと使ってはいけないことの基本をごく簡単に話をしています。

もちろんキーボードとセットで使ってもらってもいいんですが、今回の場合であるんだったら、キーボードが取れるということで、端末をひっくり返して、タブレットの状態にして使えます。子供たちは結構タブレットの状態で使うんです。今の機械ですので、横になれば勝手に横になったり縦になったりします。ただ、画面はまだカバーがない状態なので、ちょっと危険、気をつけてねみたいな、そんな話をさせていただいています。

電源をこうやって入れるよという入れ方とか、ちょっと長いので飛ばします。

今回の仕組みというか、今のＧＩＧＡ端末全部そうなんですけれども、パソコンがあってサーバーがあってフォルダがあるという形では全然なくて、全てがウェブサービスになっています。ですので、ログインという作業がどうしても入ります。あと、共有フォルダという概念も全く違うので、先生方もすごく戸惑うところなんですが、そこの部分はどうしても越えられない、しっかりやらないといけないことなので、丁寧にログインの話、それと概念の話を簡単に、かつ明瞭に話をしていくところなんですが、子供たちは結構もう、ああこれねと言ってＩＤの入力をやって、どんどん素直に入っていっています。

では、授業の様子をお話をさせてください。

このとき、この後理科の授業になるんですが、中学校２年生理科で、放射線について調べ

ようという調べ学習をこの日はやっていました。先生のほうから課題とプリントを提示して、子供たちが自分たちで調べてまとめていくという授業です。

ちょっとユーチューブというのをやってみたいというので、これだけの人数、台数大丈夫かなと思ったんですが、ほぼ大丈夫でした。ですので、ユーチューブも含めていろいろなものから情報を調べていくという学習をしているところです。

今の子供たちはキーボードを全然触れないんです。みんなもうスマホ世代なので、キーボードのマウスパッドとかが苦手なので、戸惑っている子が多かったんですが、もうそのうち気がついて、タブレットの状態でやり始めました。

ユーチューブという話になってきたら、音が同時に聞こえて心配だということで、鉢盛中学校さんのほうでは１人１つずつ個人持ちでイヤホンを用意していただいて、それを使っています。100円ショップのものなんですけれども、これだけで子供たち集中して自分のところをこうやって調べております。

使い出せばやはり子供たちは非常に早くて、どんどん進めていく感じでした。この子なんかは、もう縦にして自分で調べている。もういわゆるタブレットと同じように。大きくなったり小さくなったりスマホみたいにできるので。もう自分の使いたいように使って調べていました。

ということで、概略ではありますが、今やっているところがこんなところになります。

ありがとうございました。

○管理者（臥雲義尚君）　ありがとうございました。

ここからは自由にご発言をお願いしたいと思いますが、ご覧いただいたＩＣＴを活用した教育などについてご意見をいただければというふうに思います。いかがでしょうか。

百瀬さん。

○職務代理（百瀬司郎君）　今、中学生の授業で使う様子を見させてもらって、かなりどんどん進んでいってしまうというような話を聞いて、中学生だとこのくらいのペースで入っていけるんだなという実感は持てたような気がしますが、小学校の場合はどんなふうな感じになるのかなということは、今ちょっと心配になりました。例えば低学年、松本ではタブレットが入るというような話を聞いていますが、私どもではこれを同じように使っていくという形になりますけれども、小学校の子供たちが初めて手にするような場合、どんなふうな動きになるのかちょっと予測がつかないなということはちょっと思いました。

それと、やはり教師のスキルの問題は時間かかるだろうなと。こっちのほうが時間がかかるかもしれませんけれども、授業で本当にもう使いこなしていくまでにどのくらいの研修を重ねなければいけないのか、また、例えば４月から導入されるとはいっても、半年ぐらいはどうしてもかかるのかどうかという、そこら辺のところが見通しが、こちらが持てない。そんなところがちょっと心配になるなということを思いました。

○管理者（臥雲義尚君）　小川さん、今小学校の児童でどの程度できるのかというご質問あり

ましたけれども、どうお考えですか。

○松本市教育委員会（小川文徳君）　やり始めればあっという間かなと、内容にもよるんですが、小学生のプログラミングの競技に来ている子たち、５年生とかを見ても、かなりできてしまう気がします。

　やはりおっしゃったように、一番は先生方の心の持ちようとか事前の準備がどのくらいできるか、研修の部分かなと思います。ですので、始めてしまえば、多分小学校も子供たちについてはもうどんどんやっていけるし、むしろストップというぐらいの感じの印象はありますが、それを踏まえた全体の先生方の研修ということがやはり中心になるかなという気がします。

○管理者（臥雲義尚君）　そうするとやはり先生たちの課題が大きいということになりそうですね。

　根橋さん、どうですか。

○教育委員（根橋範男君）　私たちの小学校の先生、今デジタル教科書を使うのに精いっぱいで、それも活用できる先生と活用できない先生がいて、すごくばらつきがあります。これで本当に１人１台端末が配置されたときに、先生たち、さっきのような探究的で深い学びにつながるような授業展開がどうなのかなと、とても心配になって、やはり行き着くところは、さっき言った先生たちの研修をどうつくり上げていくのか、それとか、単独ではちょっとなかなか難しいかなと思うものですから、何かどこかで研修の機会を同じような目線で開催してもらえるようなところがあればありがたいなと思います。

　山形小学校にＩＣＴ支援員をこの11月から配置しているんですけれども、支援員さんだけだと多分授業と組合せながら活用、そのＩＣＴ、１人１台端末の活用の部分まで深く研修できるかというとなかなか難しそうなものですから、どこかで先生たちが研修できる機会、頻繁につくってもらえればありがたいなと思っています。

○管理者（臥雲義尚君）　小川さん、今動画で見た、いわばＩＣＴタブレットを辞書代わりにして使うということがまず最初に生徒たちがやることなんですか。

○松本市教育委員会（小川文徳君）　いや、たまたま授業でここの単元をやりたいという先生がいらっしゃったので、その流れになったということで、入り方はそれぞれかなと思っております。

　ですので、一番最初、例えば写真を撮って、小学校だったら春探ししてみようだとか、例えばＱＲコード、英語とかにはついておりますので、そういうものを引いてみるとか、それぞれかなと。今回は教科の担当の先生がここをやりたいとおっしゃったので、その講義を見ていただきました。

○管理者（臥雲義尚君）　そういう意味では、改めて習うより慣れろというか、その部分は実は我々の世代よりよほど子供たちのほうが、その慣れろの部分は素地がそれなりにあって、それを先生方ができるところからといいますか、どんどん子供たちに触ってもらいながら、

自分もそれを実践しながらということで、要はこれを使えるようになる、それを、あまり最初から学習にどう結びつくかということをちょっと考え過ぎないほうがいいのかなというのも、拝見したりお話を伺ったりしながら思いました。

清澤さん、保護者の立場からどのようにご覧になりましたか。

○教育委員（清澤あゆみ君）　先ほど担当の方もおっしゃっていましたけれども、今の子供たちはもう本当にスマホに慣れているので、キーボードは本当に打てないと思うので、どんなパソコンが、端末が導入されるのかなとすごく興味があったんですけれども、実物見せていただいて、本当にタブレットをスマホのように扱えるというので、子供たちはとても早いんじゃないかなというふうに感じました。

今の子たち、うちの子は一番下の子、高校生なんですけれども、テレビはほとんど見ないんです。もうスマホで全部見られるし、テレビというものにもうあまり興味がないというか、テレビの番組とかも、何か年末にやるような番組というのは見ていたりするとは思うんですけれども、たとえそれで見られなくてもすぐまた映像として携帯で見られるので、本当に前のように録画して見るとかということはほとんどない感じなんですよね。

高校生になると、やはり学校の連絡とかも全部携帯のほうに流れてきたりするというのもありまして、もちろん必需品になっているなというのは実感しています。

画面がやはりすごく小さいので、視力のことはすごく心配にはなっています。やはり明るいところでというのは気をつけてはいますけれども、だんだん監視できなくなっていく年齢になってきたりするとやはりその辺のところが、しかも小さいうちからやはりこういうものを見ているということになると、その辺は親御さんとしてもすごく心配なところじゃないかなと思います。

うちに１歳半の子もいるんですけれども、その子も親の携帯とかもうどんどん使うことができるんです。なので、子供たちは本当に早いと思うんですけれども、先生方のほうがついていくのが本当に大変なんじゃないかなと思いました。

使い方によっては、やはりグループ学習とかで話合いしながら、端末を見ながらというふうに使っていけたら次から次へと展開した授業になっていくんじゃないかなという、そういう期待もあります。

○管理者（臥雲義尚君）　今、清澤さんからも先生方の使い方、あるいは研修というお話ありましたけれども、これはこれからもどういう内容のものをどういうスケジュールでやっていくというようなことは今の段階であるんでしょうか。

○松本市教育委員会（小川文徳君）　すみません、ありがとうございます。

一応大まかな案はつくってあって、支援員さんとの関係等で、どういうふうに流していったらいいかということは日々検討中です。

例えば基礎的な内容、そしてあとは保存の方法、そして授業でどうやって使っていくかという、できるだけパッケージ化したようなものを取りあえず基本として学校に提示しておい

て、あとは学校のペースに応じて修正しながら研修を重ねていくと。これだけの知識、スキルの研修は取りあえずやっていただきたいというものは明確に出していきたいなと考えております。

○管理者（臥雲義尚君）　今、視力のお話がありましたが、僕らの子供の頃はテレビができたときに、テレビを見過ぎるなと怒られて、それを更に画面が小さくなって、ということだと思いますが、ここへの子供たちへの指導というのは学校側としてはやられていないですか。

○松本市教育委員会（小川文徳君）　やはり非常に重要な大切なお話かなと思っております。とにかく子供たちの視力もそうですし、あと外に出ないので骨折が多かったりだとか、ボールが打てなくなっているだとか、体に関する心配なところがいっぱい出てきます。

　特に情報モラルという子供たちのネット上の振る舞いについても非常に心配だということで、今のところは学校にリクエストがあったときに出かけていってお話をするスタイルですけれども、それもきちんと市教委のほうでご提示できるような形であればありがたいなということを今検討中であります。ですので、モラルのことも含めて、体のこともしっかりやっていかなければいけないと今計画しています。

○松本市教育委員会（合内誠宣君）　すみません、補足で、タブレットの使い方についても、市教委のほうでもつくっておりまして、例えばその中に、30センチ以上は距離を空けて使いましょうとか、そういう使い方も今まとめておりまして、それをまた各学校のほうで扱っていただけるということでやらせています。

○管理者（臥雲義尚君）　赤羽教育長。

○教育長（赤羽郁夫君）　今それぞれ、特に朝日小学校、山形小学校は小学校段階だけということで、今井小学校もそうですけれども、松本は小学校、それから鉢盛とつながっているということを考えると、やはり小中のこの学びの連続性みたいなものに基づいた研修等も必要かなと思いますので、一つは４校の先ほど教職員研修会という話がありましたので、４校の教職員研修会という場を活用して、そしてこの鉢盛中学校学区のスキル、教員向けのスキルアップということはしていく必要があるのかなと思いますし、やはり小学校段階でも、その使い方のルール等も、今松本市でも一応小中別ですよね、つくっていますので、それもまた情報共有しながら参考にしていただいて、そしてトータルとして進めていけたらなということを一つ思っています。

　ですので、またその都度、もしこういうことはどうだとかということがあったら、松本市の教育委員会のほうへお問合せいただきながら、私たちが気づかない課題もきっと出てくることもあると思いますので、そんな点で一緒に情報共有しながら進めていけたらと思いますので、よろしくお願いします。

○管理者（臥雲義尚君）　大変ありがたいことだと思います。やはり子供たちが小学校を卒業したら鉢盛中、それぞれの小学校から中学校で一緒になるということを考えると、ある程度統一した見解とか、あるいは学び方というか、使い方についても同じようなルールを持って

いた方がいいと思いますので、連携していただきながら進めていただければありがたいなと、そんなふうに思います。

○教育長（赤羽郁夫君）　実はこの間も、今高校改革の研究会等をやっているんですけれども、高校は、現在は私立高校と、あと県立では県ヶ丘だけが１人１台端末を持って、来年から公立高校も一応全部入る予定なんです。

　高校のほうからも希望があって、やはり小中高とつながった連続的なＩＣＴを活用した教育というのを、これからもそういう視野でも考えていかないと、なので、例えばどんなソフトを使って子供たちが学んできたかとか、そういう情報共有もぜひしたいというようなご希望もありますので、本当に少なくとも小中だけはきちんと共有しながらやっていく、そして、その市町村という地区、少し例えば11通学区くらいの範囲ではそういう情報も共有しながら進めていかないと、子供たちが全部11通の高校へ最終的に行くので、そういう広い視点もこれからは必要なのかなというように個人的には私は思っています。

○職務代理（百瀬司郎君）　広域的、一体的にそういったまとまりができると、本当に子供たちにとってはありがたいということでございます。松本市さんあたりにちょっと先に立っていただいて、お願いできればと思います。

○委員（根橋範男君）　朝日で情報モラルの教育をやるときに、今までは一人で情報機器に触っては駄目よとか、家族がいるところでないと開いては駄目よとか指導をしていましたか。実は山形村ではそうやって指導してきたらしくて、今度１人１台端末になって、持ち帰るということになると、今までの指導を変えなければいけないと。だから、今度安全に活用するというところへシフトしていかないとなんていうことで、そういう意味で、さっき言ったように、情報モラルの指導というんですか、そういうことも大事になってくるのかなと思って。

○職務代理（百瀬司郎君）　今度は持ち帰りの課題で、これもある程度、情報をもらいながらやっていかないと、ルール化していかないといけないなと。

○委員（根橋範男君）　今まで一人で触っては駄目よと言っていたのが、今後は一人で触るようになる。

○職務代理（百瀬司郎君）　３月までにはある程度形にしないといけないなと思ってはいるんですけれども。

○管理者（臥雲義尚君）　先ほどの清澤さんからの今の子供はテレビを見ないと、ユーチューブ、スマホかタブレットということがありましたけれども、私はやはり一番これからの学校現場で、タブレットが１人１台になり、今の情報モラルという言葉がありましたが、そういうあまり子供に接しさせたくない情報に接しさせないということと、それと、現在の読み書きそろばんのツールですので、これ積極的に全国小学校、中学校、高校、それぞれの段階ごとに使っていくことになります。そのときに、メディアリテラシーという言葉、つまりここで我々子供たちが接しられる情報の信頼度とか、どういうところにポイントを置いて、ウィキペディアとかまとめサイトとか、あるいはホームページとかいろいろある意味情報の種類

というのがあって、そういう事というのは子供は本当に学校現場でかなりの時間を割いてというか重点を置いて子供たちに教えていく必要がある、教えてもらいたいなと思うんですが、これは今のカリキュラムの中でどの程度できていくんでしょうか。

○職務代理（百瀬司郎君）　そういった時間は設定はなされていないですよね。時間としては取られていないというのが現状だと思います。

○松本市教育委員会（小川文徳君）　市長おっしゃっていただいた情報化社会に参画する態度とか、いろいろツールを文科省が出してはいるんですが、明確にこの時間にやりなさいというのはないので、意図的に、例えば道徳の時間だとか総合の時間で組んでいかない限り、通常であればやらないでも過ぎてしまうというようなのが現実になります。

　ただ、文科省は、やはりそのことも非常にしっかり言っているので、やらなければいけないなという気はしています。

○教育長（赤羽郁夫君）　今市長がおっしゃったように、まさに情報の選択内容というんですか、その信頼度、今はもう本当に偽情報から始まっていろいろな情報が、どの情報が本当に信頼できるかということを吟味する力みたいなことは、これからもう一生ついて回るので、そのことはきちんとやはり小学校段階、中学校段階、高校段階というふうな形でも、それぞれのところできちんと押さえておくこと、やはり一定程度、例えば総合的な学習だとか道徳ですとか、特別活動とか、これから場合によっては学校で特設して、時数を確保して、メディアリテラシーも含めて、少なくとも学期に何回かはやっていくような、特にここ、来年度から３年間ぐらいはやはりかなり力を入れてやっていくことが大切になるかなと、私も個人的に思っていますので、やはりここ３年くらいがやはり勝負だろうなという、ここを丁寧にやればかなり子供たちはいいスタートが切れるし、そこをとにかくその機器の使い方だけを重点的に、それと教員のスキルアップを重点的にやってしまうと、一番根本のところがなかなか子供たちが身についていかないという。ただこれを使うだけの能力というのはすぐ覚えてしまうので、そこのところはやはりかなり力を入れて、カリキュラム等とかそれについてもまた小川先生や合内先生のところでぜひまた検討していただいて、また教育委員会でもしっかり検討していきたいと思います。

○職務代理（百瀬司郎君）　私も３年ぐらいはどうしても必要かなというふうに思っているんですが、やはり情報の取捨選択能力とか、あるいは信憑性に対してどう判断するかとかいうことについてはやはり指導していかないと、どれもみんな出てきたものはみんな本物だ、正しい情報なんていうような意識でいってしまうととんでもないことになりそうだということになると思います。

　やはり時数をある程度どのくらいの時間確保するのがいいとかいうようなことはこれから考えていかないと、特に３月までの間に来年の授業時数を、あるいは授業日数を考えるときに、どうしてもそこがプラスされてくるんじゃないかなと、そんなふうに思います。いろいろな場面で、教科の学習でも道徳でも、本当にやっていかないとまずいなと、そんなことを

思います。

○管理者（臥雲義尚君）　ほかにご意見ございますでしょうか。

藤田校長先生、既にいろいろ見せてもいただきましたが、改めて現状、このＩＣＴの学びについてお感じになっていることがございましたらちょっとお聞かせ願います。

○学校長（藤田克彦君）　では、お願いします。

では、教員のサイドからの視点と子供の視点からということで、２点お願いします。

やはり教職員の活用とか経験値、意識というものの違いはあります。それで、今回のいわゆる今まで線でつながっているパソコンの扱いと今回のタブレットの基本的な考え方の違いもあり、今本校では市教委の支援もいただきながら、本当に丁寧にここまで職員研修を２回、そして来年にも、年明けてもやる予定で進めているところですが、職員個々と話してみると、やはりまず何ができるのかなというイメージがやはり具体的に持てないでいるというのが一つあります。

ただ、これができるんじゃないかなという、まだ漠然としているんだけれども、これだったら行けるかなという、いわゆるそこを話してみると、教科の特性によって発想が違うということが分かります。

例えば、私も保健体育なんですけれども、保健体育であれば、映像を記録して見返したりとか、そういうことが手軽にできるようになると。これはもう早速やってみたいというのだったり、国語であればそれぞれの、例えば英語とか音読したのを自分で吹き込んでみて、自分を振り返ったりとか、意見をまとめたりとか、そんなできそうなことをまずやってみるというところからスタートなのかなということを感じています。

とても前向きで意欲的な教員もいますので、そういうのがリーダーになりながらまず動き出してみて、だんだん広がっていく、そんな中学校の姿を小学校の教員にも見てもらうことで、この４校のものが進んでいくかなということで、まさに話にあったできることをやってみる、習うより慣れろというのが教員にも通用するのかなということを感じています。

それから、生徒、先ほど理科の学習で扱った生徒たちにちょっと話を聞いてみたんですけれども、今までの学習の一つの幅が出たので楽しかったという声もあるんですが、中には分かりやすかったという、そういう生徒もいました。

それで、可能性として、ああこれいいなと思ったのが、調べ学習だったんですけれども、自分でやりたいことができたと。これは、例えば一つのテーマで、そのテーマから何に向かっていくかという、自分のニーズや欲求によった個別的な学習を、１人１台端末が保障していく可能性があるなということを感じています。

また、職員研修でやりましたｅライブラリの活用によっては、授業とその振り返り、定着というのをドリル的なもので補完する学習にも、授業の中でさっと活用して、さらにその蓄積は結果としてその個人に返ってくる。私も、ここまでできるのかと思ったんですが、積み重ねると、あなたの過去のやったことから、ここをやるといいですよというのを、これを力

を伸ばすためにはこういう部分がいいですよというようなものに提示されてくるということで、本当に個別に最適化されたというか、そういう学びを支える可能性もあるなということを感じています。

以上です。

○管理者（臥雲義尚君）　ありがとうございました。

今のお話聞きながら、やはり、辞書でもありカメラでもありＩＣレコーダーでもあり、本来いろいろなことができる機器を、子供たち一人一人が自由にといいますか、使える機会を与えることができたというのは、実はいろいろ課題はあるんですけれども、大きくやはり前進をする可能性を秘めているなと、校長先生のお話を聞きながら思いました。

ですので、今までパソコンを学校に入れても、なかなかどうやって使うのかなといって難し過ぎた、あるいは用途が限られていたものに比べると同じＩＣＴ機器ですけれども、非常に子供にとって使い勝手のいい、選択肢の広い、そういうものだなというふうに感じました。

ですので、あまりこうやりなさいということを先生方も、何かマニュアルは必要なんでしょうけれども、それぞれ教科や自分の得意、不得意、何かまずは積極的にチャレンジしてもらうことが、いろいろなものを前に進めていくのに必要だなということを感じました。その上で、当然ですけれども、ポイントとして押さえなければいけないいろんなことを先生方には取り組んでいただき、また教育委員会としてそれをしっかりと制度的に動かしていくことが必要かなと思いました。

そろそろ時間ですけれども、最後にご意見もしございましたらお願いいたします。

○教育長（赤羽郁夫君）　では、最後に一言。

今市長のほうからもお話ありましたけれども、あまり肩肘を張らず、とにかく使って、使いこなすというそういうこと、それからこの地域、３市村で情報を共有しながら、研修等も進めながら、進めていくというようなことが今日は確認できたかなと思いますし、私はまた個人的にも、やはりこの１人１台端末は、特に特別支援、個別な支援が必要な子たちの合理的配慮という視点で非常に有効になるかなというふうに思っています。

以前にやはり学習障害の子がこのタブレットを使用したことによって非常に力がついたという報告をある研究会で受けたことがありまして、早くこういう時代が、特に特別支援の子たちにとっては来ないかなと思っていたので、そこもぜひ併せて、普通の授業の中で扱うと同時に、特別支援で活用することで、目に見えて力を発揮して、子供たちの個別の力を育成することにつながると思いますので、ぜひまたみんなで情報共有しながら学び合っていければというふうに思います。

以上であります。ありがとうございました。

○管理者（臥雲義尚君）　それぞれ委員の皆様ありがとうございました。

本日の内容につきましては、事務局で議事録を作成して速やかに公表していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局に進行をお返しします。

○事務局次長（小林伸一君）　どうもありがとうございました。お疲れさまでございました。

本日の結果につきましては、２月16日に予定をしております２月定例会におきましても議員の皆様に報告をしていく予定としておりますので、お願いをいたします。

◎閉会の宣告

○事務局次長（小林伸一君）　それでは、以上をもちまして令和２年度第１回松本市・山形村・朝日村中学校組合総合教育会議を閉じます。ありがとうございました。

会議録調整職員　松本市・山形村・朝日村中学校組合　主任　松尾　昌樹